

## 潜水士・渋谷レポート

### 令和2年を迎えて ～海の調和と開発への道～

潜水士として、水中に潜りはじめて46年、遊びの素潜り時代も合わせると50年余りになる。半世紀の間、地球の水面下を見続けてきた。潜水学校を卒業して小さな潜水会社に就職、最初に潜ったのが東京都の下水処理場だった。大小便の水中は真っ暗で、浮上してくると、口にくわえたレギュレーター（呼吸器）やマスクに汚物が垂れ下がっていた。水面には、ドブネズミの死骸も浮いていた。

今、考えると強烈な潜水士デビューだった。ただその頃は、生まれた子供や家族を養うために、贅沢は言えなかった。金を稼ぐためにガムシャラに水の中に潜り働いた。それがプロだと自分に言い聞かせていた。

平成の初め頃、ふと見たテレビの中に環境の破壊というシーンが飛び込んできた。「環境の破壊」という言葉から自分の仕事を見直した。水中の磯をダイナマイトで壊し港を築る、湿地帯や海岸を埋め立てて、工業地帯や空港をつくる、それは世の中や社会のためになると思ってやってきた。しかし、誇りを持ってやってきた自分の仕事が、環境という面からみたら、私は破壊者だったのだ。胸の痛む気づきだった。自分の職業に迷いが出た。どうしたらよいか先が見えず、その後の数年悩む日々が続いた。

平成2年の東京湾アクアラインの建設スタート時に海中に設置した構造物にクロダイの群れを目にした。環境に悪いと思っていた「構造物にも魚が集まる」、この手がかりは、大きなターニングポイントになった。「もしかしたら、自分も海の環境にできることがあるのでは」と小さな希望が生まれた。海（の自然環境）と調和する海洋構造物をどうするかは、まったくわからなかったが、破壊者から抜け出したいという思いと、破壊してきた海への申し訳ないという気持ちが私を突き動かしていた。

小さな潜水会社の代表兼潜水士だった私にできることは、水中工事をやりながら、そして仕事の合間をみて、海中の環境を見続けるしかなかった。はじめの頃は、社員に「環境が大事、調和が大事」と海に潜っている私を見て道楽者と陰口を言われた。同業者からは「環境のことなど言ったら、お前のところ（会社）に仕事がなくなるぞ」と警告された。

しかし「海と調和する開発のあり方を見つけたい」という思いは、海に潜るたびに強くなっていた。海と調和したいという気持ちで、日々を過ごしているとそれを強化する人の縁や出来事が訪れるようになった。今から17年余り前になるが、東京大学の故定方教授から、海の磯やけ回復について手伝ってくれないかと声をかけられ、一緒に活動をするようになった。それまでは、海の構造物に魚がどう集まるかに目が向いていたが、海藻が枯れるという海の砂漠化現象-磯やけには、目が向

## 潜水士・渋谷レポート

いていなかった。以後、海に潜るたびに海藻が繁っているかどうかや磯やけ現象が生じていないかという視点も入れて、海の中をみるようになった。

海の中の様子を見るたびに「あその海はどうなっているのか」という探究する気持ちが強くなっていった。仕事であろうとなかろうと海の中を見せてもらえるなら、どこへでも出かけて潜った。年間 200 日を越える潜水もあった。1 日に潜水する時間も長く、同行したスタッフを泣かせた。海藻、海藻と海の中を潜る私をみて、「何がおもしろいんだろう」とうんざりさせた。

そんな私に各地の漁業組合から声がかかるようになり、漁場や藻場（海藻の繁っているところ）の調査や再生をする仕事の依頼が来るようになった。

私は、水産の専門家ではないので学術的な見解はわからないが、漁業者と行う再生活動は、海と調和する仕事を一緒にできる相棒ができたようでうれしかった。それは 15 年余りの間に日本全国 50 数箇所にくらんでいった。

海外の海に出かけることもあった。海中で見えるのは海藻や海の生態系ばかりだったので、現地の水中ガイドから「お前は海の中で、何を見て楽しんでいるんだ」といぶかれた。

今、その漁場・藻場の調査や再生の活動が、日本でスタートした洋上風力や潮流発電事業などに活かされつつある。日本の海の中に洋上風力を建設するには、漁業者さんの理解が必要で、そのためにも洋上風力は漁業と共生・協調したデザインにする必要がある。そのデザインづくりに長年の実体験に基づいた経験が活かされようとしている。

平成のはじめに湧き出てきた海と調和した開発への思いは、長い年月を経て、令和の時代に実を結びつつある。いや実を結ばなければならないと思っている。人間の都合だけ海を開発する時代は、もう終わりにした方がいい。地球を汚さない持続可能な海洋エネルギーをつくるのに、海の環境を破壊しながらつくっては意味がない。自然が喜ぶ、漁業が喜ぶ、そして地球が喜ぶような海洋エネルギーづくりに潜水士として残りの人生を捧げたいと思っている。



2020 年 1 月 1 日

潜水士 渋谷 正信

株式会社 渋谷潜水工業  
(一社) 海洋エネルギー漁業共生センター